

令和5年度(2023年度) 熊本県学力・学習状況調査 【今後の取組に向けて】

今後の取組 (各学校での取組に向けて)

【学校総体で取り組むこと】 次年度に向け継続した取組

●児童生徒を学びの主体とするための指導の充実

授業における主体的な学びを促す学習活動の充実

- 単元全体を見通して、「自分で考える」「自分の考えを工夫して発表する」「自分の学びを振り返る」等の自ら取り組む学習場面を確実に設定する。

家庭学習における主体的な学びの充実

- 計画的に家庭学習に取り組むことができるよう、児童生徒が自分で選択したり、判断したりして決めるなどの指導を丁寧に行う。
- 自主学習においても、児童生徒が自分の学びを自覚できるようになるために、教師が児童生徒の頑張りを認め・褒め・励ましなが、次の学びにつながるアドバイスを行う。

⇒【参考指標1, 2】の向上を図る。

【参考指標1】: 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

【参考指標2】: 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。



●各教科における課題の克服と理解度の向上へ向けた取組の充実

教科に関する結果・分析の活用(課題となっている問題の把握と授業改善)

- 県教育委員会HPに掲載している県学調の結果・分析資料で課題を把握するとともに、克服に向けた授業改善を行う。

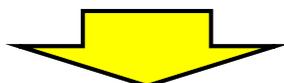
課題となった問題の確認及び定着確認の徹底

(特に正答率3割未満の児童生徒への指導支援の充実)

- 各教科で、個人票などを基に、子供一人一人へ意欲を最大限高める声掛けを行い、課題克服の方法についてアドバイスする。
- フォローアッププリント等を活用し、一人一人の課題克服と、克服状況の確認を行う。

⇒【参考指標3】の向上を図る。

【参考指標3】: 授業の内容はよく分かりますか。(各教科において)



〔取組の検証〕